

平成 21 年 11 月 9 日
インド・アジア開発

India Today Nov.9, 09 号「大いなる脅威」

当該雑誌社は 10 月 26 日号の Cover Story でインド政府のマオイスト対策を報道しておりその邦訳をお届けしましたが、該社の「Board of Experts on Security and Terror」が下記四題について議論を交わし、11 月 9 日号の 38-66 頁に亘る Cover Story として大々的に報道しております。議論の結論めいた部分と発言要旨を邦訳しました。

1. The Board Members(10 名)

Ved Marwah

Former Governor, Jharkhand (中央政府派遣の州知事、実権ある州首相のお目付)

G. Parthasarathy

Former High Commissioner to Pakistan (英連邦内では大使を総督と呼ぶ)

Ajit Kumar Doval

Former Director, Intelligence Bureau

LT-Gen(Retd) Satish Nambiar

Former Deputy Chief of the Army Staff

Kiran Bedi (女性、Bedi はパンジャビーに多い姓)

Former DG.Bureau of Police Research and Development

Air Vice Marshal(Rtd) Kapil Kak

Additional Director, Centre for Air Power Studies

Major General(Rtd) V.K. Datta

Former DDG MO (Special Operations)

Amitabh Mattoo

Professor, International Politics, JNU (Jawaharlal Nehru 大学、デリー在)

Brahma Chellaney

Prof. Strategic Studies, Centre for Policy Studies

Ajai Sahni

Excutive Director, Centre for Conflict Studies

2. 論題

- ① Post 26/11, is India better prepared against terror ?
- ② How should India tackle an obstinate Pakistan ?

③ What should India's counter be to an aggressive China ?

④ Is the strategy against the Naxals working ?

3. 専門家の議論 Highlight

パキスタン系テロリストに依るムンバイの Taj Mahal Hotel などホテル襲撃事件 (26/11) 以来の、インド政府の対テロ策については 10 名の専門家全員が意見吐露しておりますが、残る 3 題については専門家により得手不得手があるようです。題毎に、発言ハイライトをご紹介します。

① Post 26/11

中央政府の戦略が広範囲に機能するようになってきたが、満足には程遠い。チダムバランはうまくやっているが、脅威は存在しており組織の改革実行が必要。

Ved Marwah

中央政府は好評を得ているし、過激派が生き残りを賭して戦っているパキスタンでも近時進展がある。パキスタン軍がタリバンに勝ってもインドはトラブルに遭うだろう、タリバンが勝てば、勿論、もっとトラブルが発生するだろう。

チダムバラン内相はインド情報機関に緊急事態への覚醒を促してきたが、テロ事件を政争にしないと言う全政党のコンセンサスが必要である。

調査機関、検察、裁判所、が容易に動けるような総合的な法律が必要である。

Brahma Chellaney

担当機関が良くなった訳ではなく、政府の反応面で良くなっている。チダムバランは全員に圧力をかけ、初めて最高級レベルでの協同を生んでいる。ナクサリズムはインドの国家安全に対する最大の脅威であるが、過去に於いて対応してない。現在、戦略では無いにせよ、ナクサル暴力沈静化の努力が在る。

我々はパキスタンを被告席に追いやるべく書類突きつけ策を採っており、パキスタンが 26/11 事件首謀者達に対応措置を採らなければ、インドとの関係正常化はありえない。

Ajit Kumar Doval

チダムバランは内務省を正常化してきたし、既存能力の最適活用をしている。情報機関が大々的な変化を来たしている訳ではないが、今日、各情報機関は以前に比べ効果的に活動している。

政府が圧力をかけ続けてきたので脅威のレベルは低下してきている。パキスタンは、インド国内での密やかな活動が高いものにつくとある種の評価に達しているようだ。

V.K.Datta

警官訓練は、装備と予算が限られているので、時間がかかるだろう。テロ対応メカニズムが適切でないと、テロ攻撃の処置にタイムラグを生じる。テロ抑制措置は情報機関とテ

ロ攻撃前の先制攻撃を含むものであるべき。

26/11 の再発？ 我々のテロ抑制措置が改善されてなければ、いつでも起こり得る。26/11 後、パキスタンが悪党国家であることをインドは初めて世界に実際に証明できた。

Kapil Kak

インドが自国安全策である種の基準を採らないと、大したことは出来ない。テロ抑制面でも又今後の 10-15 年間でも、成果を挙げるには状況分析が重要である。

26/11 後、軍事力不使用は政治家的な行動だった。パキスタンは自国西部国境でのトラブルに追われており、インドでは何事も発生していない。我々は精密攻撃能力を有するが、パキスタンはこの種の連続テロをさせないだろう、と言うことを計算に入れるべきである。

Kiran Bedi

テロ攻撃阻止の行動を誉めるべきかも知れないが、私は満足できない。警察の実績と国民への影響について、未だに有目的な評価がされていない。歩兵部隊がテロに取り組んでいるのに、チダムバランは中央警察機構に接触しただけではないか。関係機関のレスポンスは本物ではなく、単なる反応でしかない。チダムバランはリーダーシップの宣伝をすべきである。

Ajai Sahni

過去 11 ヶ月間テロ発生無しと言うことと、我々が置かれている状況とは関係ない。今尚、我々は傷つき易い状態である。

オリッサ州は 207 名の IPS(Indian Police Service-上級職警察官)を承認したが、僅か 84 名しかいない。統率に関する諸レベルで 30-40%の欠陥がある。我々の期待は高いが、スタンダードは甚だ低い。チダムバランが警察署廻りは出来ないし、それは彼の仕事ではない。

Amitabh Mattoo

National Security Guards Hubs, Intelligence Bureau などの協同が進歩し、以前に比べ良くなっている。チダムバランは良くやってるが、彼に全権委任している首相のことを忘れてはならない。

最近のパキスタン情勢は、テログループが 26/11 攻撃類似のテロ敢行を困難にしている。選挙の結果、デリーとの結び付き重視する諸勢力がカシミール内で大きくなっているが、カシミールは、依然として触発の地であり、刺激されるとパキスタンの敵意あるイデオロギーが流布され得る。

② Obstinate Pakistan

パキスタンとは選択肢のある弾力的交渉、限定的な対話復活、然しながらテロ脅威撲滅への強固なアプローチ。

G. Parthasarathy

我々は公式の場でテロ問題を十分に強く採り上げるのを失敗している。テロ行動は外交面だけではなく、全てで高いものにつくことをパキスタンに知らしめるべき。テロについてパキスタンと限定的な約束取り付け推進、然し包括的対話は塩漬け。忍びやかな且つ明白な対応をインドの根本方針とすべきで、パキスタンに対する我々の対応限度を模索すべき。パキスタンはアフガニスタンとイラン問題に直面しているので、我々は選択権を手中にしている。

Satish Nambiar

インドは、パキスタンの安定化の為に動くべきだとの見方には賛成できない。パキスタンが転落したければ、放っておけば良いが、我々は状況把握が必要である。対話は続けるべきで、インドは対話を回避するものではないことを示すべき。

パキスタンはアフガニスタンで米国を支援しているので、カシミール問題でのインドの譲歩にむけて米国の圧力があるかも知れない。その場合、我々はなにかをしなければならぬが、パキスタンの状況が悪くなっても対処できるだろう故、方針を貫けば良い。

Kapil Kak

パキスタンは構造的にユーゴスラヴィアとおなじで国家と社会が繋がっていない、ことを理解する必要がある。対パキスタン戦略は多面的なものにすべきで、対話は続ける一方で懸案諸問題での封じ込みも必要。

Amitabh Mattoo

世界の同盟諸国と連携してパキスタンに圧力をかける必要があるが、パキスタンとの対話を始めるべきだが、対話はイン国内選挙で左右されない一貫したものであるべし。

棍棒を持っている人は穏やかに話す、と言われるが、インドは爪楊枝を持って屋上から喚いている。相手をやっつける能力を持つ必要がある。わが国の外交陣は昏睡しており、パキスタンに対して想像力に富んだ対応をしていない。

Ajit Doval

パキスタン国民に、インド軍は決して脅威にはならないということを理解させなければならない。インドの時の政権で左右されない長期的ポリシーで対パキスタン交渉に臨むべし。カシミール問題解決は対話継続とカシミール住民が鍵を握る。若し、パキスタンが崩壊すれば、その余波がインドへ雪崩れ込むことを懸念する人も居るが、既に我々は対応しているし恐れることは無い。

③ Aggressive China

闘争性を増している中国に対しては、決然とした対応が最善である。彼らとの約束は遵守するが、Arunachal 地域に関するインドの主張を曲げてはならない。

Brahma Chellaney

中印冷戦の影がぼんやりと大きくなって来ている。中国は、インドは政治的にも軍事的に

も対抗意思を持っていない、と考えている。彼等が優位を占めているので、私は危険を矮小化したくない。

ダライ・ラマのワシントン訪問時、世界最強国の大統領は面談回避したが、それはダライ・ラマの亡命先（インド）に対する北京の自信を増幅している。中国はインドに教訓を垂れてやると言う意図ではないようだが、事態は拡大しており限定戦争の危険もあり得よう。

Satish Nambiar

中国はインドの対チベット政策を不快として来ている。然し近年、チベット及び新疆の多くの地区で労働者騒動の続発している。我々は十分な説得根拠があるにも拘らず、近年のラダックへの侵入などの多くの事件で単に対話をしているだけだ。建国 60 周年のパレードを見ると、中国の偏執狂的防衛策は理解に苦しむ。彼らの行動は悩みの反映である。

ダライ・ラマの Arunachal Pradesh 訪問を許可することが、インドにとって重要である。

G. Parthasarathy

中国は、現今、インドが大きな力を持っていることを理解している。彼等の関心はアジアにおける力の均衡を支配できるだろうかと言う事にある。中国は単なる脅威では無く、挑戦しているのだ。彼らはインドを制しようと決心し、パキスタンに核武器移転と核技術改善をしている。

我々は中国との約束は遵守するが、幻想を抱いたりヒステリックになるのは禁物である。

中国は周辺諸国と海洋問題で揉めている、中国がインド周辺諸国と結び付いているように、我々もそれら諸国と同盟すべきである。

V.K. Datta

中国は、インドに圧力をかければ崩れるだろうと思っているが、大間違いである。我々は山岳部隊力を築く必要がある。Arunachal Pradesh に関する限り、現インド軍の対中国能力は適切である。（訳者註：1962 年、中印戦争の山岳戦で準備不足のインドは大敗）

インドは中国を恐れる必要は無いが、油断は禁物。インド軍は戦闘訓練してある。

中国は、しっぺい返しの懸念があれば、行動はしないだろう。インド政府に意思があれば、インド軍はしっぺい返し出来る。

④ Naxalite

対ナクサライト強硬方針を軍事作戦にまで拡大しないこと。地方自治体の統治力強化に焦点を置くべき。

Ved Marwah

多くの政治指導者がナクサライトと関係を持っている、我々は政治的策動には抗し難い、West Bengal では Trinamool Congress が策を弄しているが、中央政府は彼らの仲間をチェック出来ない。

マオイストの目標は中央の政権に関係なく、インドそのものであり、マオイスト暴力事件

増の背景はネパールとの結び付きであり、奴等はその弱点を知っている。ナクサライト汚染地域を処罰するのではなく、適切な人材を送込むことを始めるべき。これをしなければ事態は悪くなるだけ。

Kiran Bedi

Andhra Pradesh 州が現在安全になっているのは何故か？ ナクサライトを駆りまくったからだ。こちらでナクサライトに圧力をかけると奴等はあちらに走る。何故国全体で協同しないのか？ 政府は州と協力して諸州を纏めた **Special Security Zone(SSZ)**を構築して一人の司令の下に置く必要がある。汚染地域に **SSZ** を設けてはどうか。

我が国の警官隊はジャングル地帯対応能力に全く欠けている、彼らが大砲の餌食にするに忍びない。ジャングル戦学校からの人材調達まで待てない、今後 10 年は若い退役兵士の部隊を作るべし。

Ajai Sahni

政府は対ナクサライト作戦を不十分な仮発表して、驚かしの要素を失くしてしまった。つまり、先制を相手の手中に渡してしまった。政府はマオイストの心臓地域に到達したが、奴等をして他州での攻撃に向わしめた。

現有能力の途方も無い無駄があるし、動員可能警察力も利用されていない。政府は、AP 州がナクサライトとの戦いの為に部隊を再訓練し再展開したことに学ばなければならない。

以 上

訳者所感：カシミール問題を従来からインドは二国間問題と主張している
ので、論題② **Obstinate Pakistan** の議論「限定的対話」など
やや歯切れが悪いな、と感じます。